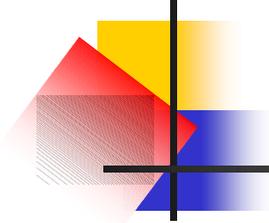


# 暗号解除について

---

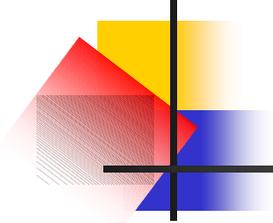
第3回国際小委員会 (9月 5日)



# 暗号解除について

---

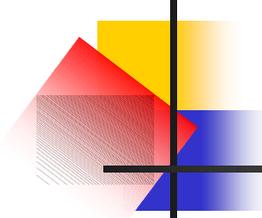
- 1 .問題意識
- 2 .国際的議論の状況
- 3 .我が国の実態
- 4 .他法令での措置
- 5 .検討に係る観点



# 1. 問題意識

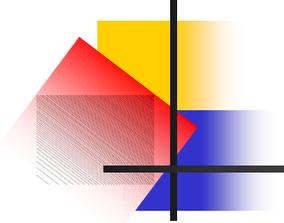
---

- 現状
  - 有料放送 : 顧客特定のための暗号化
  - 無料放送 : デジタル化に伴う暗号化
- 国際的動向
  - 権利付与 or 技術的保護手段
- 国内要望
  - 何らかの措置必要 (方法を問わず)



## 2. 国際的議論の状況

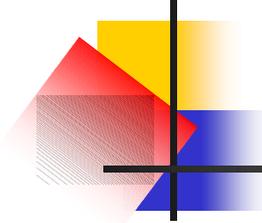
	各国の方針
米国	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 条約上、許諾権付与せず (技術的保護手段で措置)</li></ul>
EC	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 条約上、許諾権、技術的保護手段ともに措置せず</li><li>・ EC Directive (2001.5) において、技術的回避手段に対する適切な法的保護を指示</li></ul>
アルゼンチン、 スイス他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 条約上、許諾権を付与</li></ul>
日本	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国内において検討中</li></ul>



## 3. 我が国の実態

### (1) 有料放送 個別課金のためのスクランブル

	開始時期	スクランブル方式
BSアナログ (WOWOW、NHK)	1991年4月	コアテック式
CSアナログ(CSパー ン、スカイポ <sup>°</sup> ート)	1992年5月	コアテック式、スカイポ <sup>°</sup> ート式
CSデジタル(スカ イパーフェクトTV)	1996年10月	MULTI II、コアテック式
BSデジタル (WOWOW、NHK他)	2000年12月	MULTI II

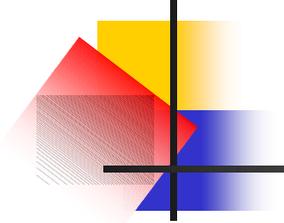


## 3 .我が国の実態

---

### (2)デジタル放送 (本年12月より) コピー制御のためのスクランブル

- 高画質無制限の複製を制限する必要
- コピー制御信号を付加して送信
- 信号に反応しない機器で受信されたものの利用を制限
- 放送信号にスクランブルを施し、コピー制御信号に反応する機器のみスクランブル解除機能を搭載させる。



## 4.他法令での措置

---

### 不正競争防止法

- 不正競争」定義

2条 1項10号 (不特定者向け) 11号 (特定者向け)のアクセス・コピー管理技術の「効果を妨げる」機能を有する装置等を譲渡等する行為

- 差止請求権

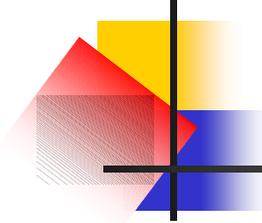
停止請求権、予防請求権、除去請求権

- 不正競争に係る損害賠償に関する措置

損害賠償請求権、損害額の推定等の措置

- 信用回復請求権

- 特定の行為に対する刑事罰



## 5 .検討に係る観点

---

- 暗号解除に係る保護措置の是非
  - ・必要性 (総務省要望など)
  - ・各国の動向
- 措置の方策 (許諾権 or 技術的保護)
  - ・他の隣接権者の保護とのバランス
  - ・相互補完性
  - ・アクセス権との関係
- 他法令での対応の可否
  - ・不正競争防止法での対応

**我が国の対処方針**